

21 産婦人科研修プログラム

プログラム責任者: 倉兼 さとみ

1. 到達目標

A) 一般目標

女性特有の疾患に基づく救急医療を研修し、思春期・性成熟期・更年期におけるホルモン環境の変化を理解するとともに、それらの失調に起因する疾患の診断と治療を研修する。また、妊娠分娩と産褥期の管理ならびに新生児の医療に必要な基礎知識を研修する。

B) 行動目標

- (1) 医療面接 女性のライフサイクル・性周期を理解したうえで患者の性的な背景について適切な配慮をしながら正確な情報を得る。
- (2) 基本的身体診察法
 1. 内診、直腸診による骨盤内臓器の診察
 2. 産科診察
 - ・内診による妊娠初期の骨盤内臓器(膣、子宮、付属器など)の診察
 - ・外診による妊娠中期、後期の診察
 - ・内診による分娩進行状況の診断(頸管開大度、児頭下降度など)
 - ・産褥期の乳房の診察
- (3) 基本的臨床検査
 1. 超音波検査(経膣、経腹)の手技と読影(CT、MRIの読影)
 2. 産科検査
 - ・経膣超音波による妊娠初期の胎児および胎児付属物の診察
 - ・経腹超音波による妊娠全期間の胎児および胎児付属物の診察
 - ・正常妊娠、妊娠合併症に対する血液、尿検査の解釈
- (4) 基本的手技
 1. 採血、各種注射、血管確保、皮膚縫合、局所麻酔、腰椎麻酔、外科小手術
 2. 開腹・膣式手術、出血・ショックに対する処輸液輸血管理、術後管理、産科、分娩介助法、会陰切開、縫合、帝王切開術、流産手術
- (5) 診療計画
入院治療計画を作成し、患者・家族に理解しやすく説明でき、退院後の指導も行う
- (6) その他
 1. 患者および家族とのコミュニケーション、インフォームドコンセント
 2. 医療スタッフとの協調、協力
 3. 診断治療ガイドラインについて最新情報のアップデートを心がける

2. 方略(On the job training(OJT))

研修施設 婦人科領域は当院、産科領域は提携病院で行う

- (1) 研修医は指導医のもとで外来診療を、また病棟では主治医とともに患者を受け持ち、その診療を通して研修目的の達成を目指す。
- (2) 研修医は産科ではなるべく多くの分娩介助を、また婦人科では手術患者を中心に治療計画の立案、検査、患者および家族への説明、術前後の管理、処置などを主治医の指導のもとに行う。
- (3) 緊急検査、処置、手術などが行われる時はできる限り診療に立ち会う

3. 評価

- (1) 研修医は、EPOC2 の研修医評価表で、臨床研修到達目標項目の自己評価による研修達成度評価を行い、ローテート終了時に自己評価記載を完了する。指導医は、同評価表の研修医自己評価を確認し、当該ローテート研修の指導医評価記載を完了する。指導医による評価結果は EPOC2 上でフィードバックされる。
- (2) 臨床研修指導医は、EPOC2 上で診療・手技・患者マネジメントについて適時評価を行う。
- (3) 臨床研修指導医または上級医は、本カリキュラムの行動目標のすべてに対する観察を行い、ローテート面談を適宜実施し、形成的評価をフィードバック面談シートに記録する。ローテート終了時の面談では、適宜看護師などの指導者も入り、総合的評価のフィードバックを行い、フィードバック面談シートに記録する。
- (4) 臨床研修指導医は、研修医が作成した病歴要約により、経験すべき症候、疾病、病態に関する理解度について WPOC2 上で形成的評価を行う。
- (5) 上記評価の上、次のローテーションで何を学ぶべきかなど、目標達成の方向性を見出せるように省察の時間をもち、話し合いを行う。

4. 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	外来	手術	外来	手術	外来
午後	病棟 検査	病棟	病棟 検査	病棟	病棟 検査

産科は 研修施設のスケジュールに従う